

『日帰りバスツアー』で子どもたちがイタイイタイ病ゆかりの場所を巡りました。

8月7日（金）、『イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』を開催しました。気温33度を超える真夏日の中、小学生14名とその保護者9名の合計23名が参加されました。

参加者は、資料館の展示室の解説を受けた後、バスに乗り込み富山市塩地区にあるカドミウム汚染から復元された農地（水田）を見学し、資料館職員から汚染農地の区分や復元工事の方法などについて説明を受けました。

その後、バスは岐阜県飛騨市の神岡鉱業株式会社へと向かい、まず工場から排出された汚れた水や不用な物をためておく和佐保たい積場を見学しました。参加者は、和佐保たい積場のスケールの大きさに驚きながらも、会社職員によるたい積場や山の周囲を取り巻く山腹水路についての説明を聞き、施設の果たす役割について詳しく学びました。

午後は、神岡鉱業(株)鹿間工場に移動し会社の事業説明を受けた後、工場内にある排水管理センターと排水処理を行うシックナーを見学し、工場内で汚れた水がどのように処理されているのか説明を聞きました。

終了後のアンケートでは、施設見学を踏まえ、かつてのイタイイタイ病の原因企業が、現在に至るまで環境への取り組みを継続していること、そして今日では、細心の注意を払って生産活動を行っていることを知り驚いたとの感想がありました。

バスツアーの最後は、富山市婦中町の富山太陽光発電所PR館を見学し、富山太陽光発電所の発電量や太陽光発電の長所や短所、太陽光以外の再生可能エネルギーの種類やその特徴についてPR館職員から説明を受けました。

また、隣接する太陽光発電所では、実際にソーラーパネルを見ながら、太陽光から発電する方法、そして発電された電気が、各家庭に送電されるまでの仕組みについて、説明を聞きながら学びました。PR館には、電車の模型を使った展示やエネルギーに関するゲームがあり、子どもたちは楽しく再生可能エネルギーについて理解を深めることができました。

一日を通してとても暑い日のバスツアーとなりましたが、実際にイタイイタイ病の現場を目の当たりにすることで、子どもたちだけでなく、同伴された保護者にも富山県で起きたイタイイタイ病について深く学んでいただけたのではないかと思います。



富山太陽光発電所での見学の様子



和佐保たい積場での説明の様子



『夏休み自由研究講座』で子どもたちがイタイイタイ病の理解を深めました。

7月31日（金）、8月1日（土）に『夏休み自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～』を開催し、2日間で小学生17人、保護者12人の合計29名が参加されました。

この企画は、子どもたちに夏休みの自由研究としてイタイイタイ病を学んでいただき、イタイイタイ病の恐ろしさとその克服に向けた取り組みを次世代へ伝えていくために毎年実施しているものです。

参加者は、まずガイダンス映像を視聴し、イタイイタイ病の概要を学んだ後、語り部の高木良信さんの展示解説を受けました。

高木さんの展示解説では、子どもたちだけでなく保護者も熱心に聞いておられ、積極的に質問もしておられました。病気の恐ろしさや患者を支える家族の様子、裁判に至るまでの住民たちの運動のあゆみやその苦労などについて、実体験を交えてお話いただくことで、子どもたちや保護者により解りやすく、より深く心に伝わったのではないのでしょうか。

また、展示解説の合間には、子どもワークシートを使ったイタイイタイ病に関する

クイズも行いました。クイズでは限られた時間の中で展示室の説明や映像などに隠された答えを子どもたちと保護者が協力して探しました。

『自由研究講座』の後半では、環境工作をテーマにペットボトルロケットを製作し、飛ばしました。

子どもたちも保護者も、最初は慣れないペットボトル工作に悪戦苦闘していましたが、次第に作業にも慣れ、参加者全員が予定時間内にペットボトルロケットを完成させることができました。苦勞して完成させたこともあり、完成したロケットに空気を入れ、発射と同時に発射台から勢いよく飛んでいくロケットの様子を見ると子どもたちは大喜びでした。また、周りの保護者からも大きな歓声があがっていました。

終了後のアンケートでは、「子どもの自由研究の付き添いで参加したが、保護者の方が関心を持って聞くことができ、とても勉強になった。」という感想や、「ペットボトルロケット工作について、難しいところもあったが、完成させ飛ばすことができとても楽しかった。」という感想を子どもたちから複数いただきました。

アンケートの感想からも今回の『自由研究講座』では、高木さんの展示解説を通じて、イタイイタイ病という公害の恐ろしさと病気の克服に向けた取り組みを子どもと保護者がともになってしっかり学んでいただけたと思います。

また、ペットボトル工作では、参加者全員が時間内に完成させ、飛ばすことができたことで、子どもたちに工作の楽しさと最後までやり遂げることの喜びを多少なりとも感じてもらえたのではないかと思います。

資料館では、今後も子どもたちにイタイイタイ病に対する興味や関心を持って学んでいただけるような企画を実施していきたいと考えています。



高木良信さんによる展示解説の様子



ペットボトルを使った工作教室の様子